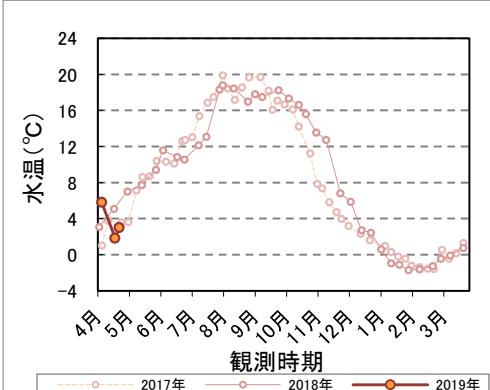


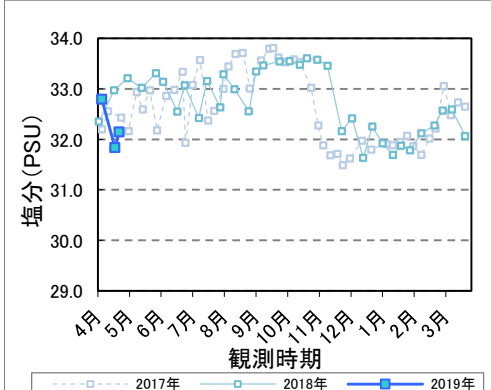
◎オホーツクタワーの動物プランクトン分析速報 (2019年4月)

海洋環境データ

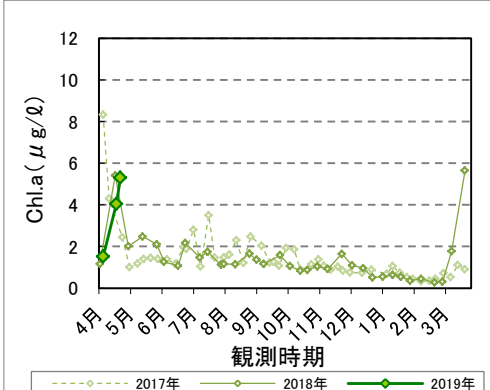
◎水温 (0~9mまでの平均値)



◎塩分 (0~9mまでの平均値)



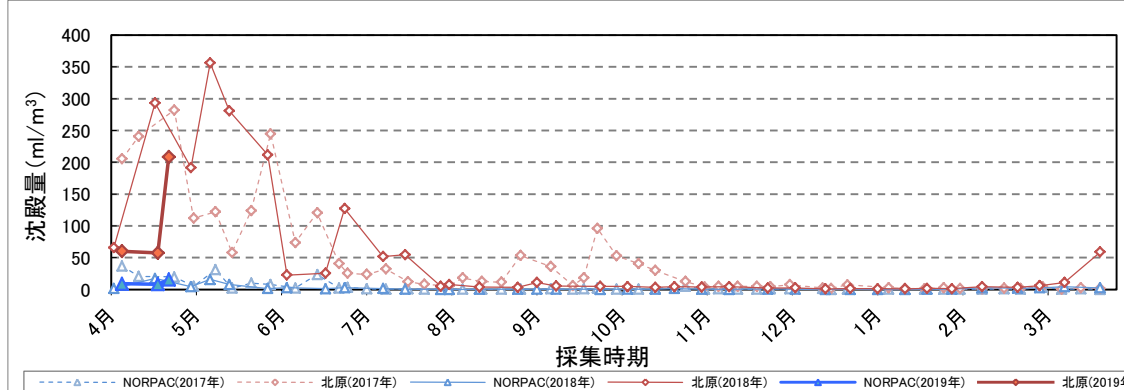
◎Chl. a (0~9mまでの平均値)



※観測：紋別市

動物プランクトンデータ

◎動物プランクトン・沈殿量



※分析：(株)エコニクス

概要

	4月5日	4月18日	4月22日
平均水温 (°C)	5.8	1.8	3.0
平均塩分 (PSU)	32.8	31.8	32.1
平均Chl.a (µg/L)	1.5	4.0	5.3
沈殿量 (ml/m³)	(NORPACネット) 9.1 (北原式定量ネット) 60.1	(NORPACネット) 8.4 (北原式定量ネット) 57.3	(NORPACネット) 15.7 (北原式定量ネット) 208.2
主な出現種	(NORPACネット) ○ <i>Eucalanus bungii</i> [+] (カイアシ類の1種) [冷水性] ◎ <i>Pseudocalanus newmani</i> [++] (カイアシ類の1種) [冷水性] ◎ <i>Eurytemora herdmanni</i> [++++] (カイアシ類の1種) [冷水性/汽水性] (北原式定量ネット) ◎ <i>Pseudocalanus newmani</i> [++] (カイアシ類の1種) [冷水性] ◎ <i>Eurytemora herdmanni</i> [++++] (カイアシ類の1種) [冷水性/汽水性] ◎ <i>Balanomorpha</i> (nauplius) [++] (ゾウガキ類のノブ) リア幼生	(NORPACネット) ○ <i>Calanus glacialis</i> [+] (カイアシ類の1種) [冷水性] ○ <i>Mesocalanus tenuicornis</i> [+] (カイアシ類の1種) [暖水性] ◎ <i>Pseudocalanus newmani</i> [++] (カイアシ類の1種) [冷水性] ◎ <i>Thysanoessa inermis</i> (egg) [++++] (枝アミ類の1種の卵) [冷水性] (北原式定量ネット) ◎ <i>Pseudocalanus newmani</i> [++] (カイアシ類の1種) [冷水性] ◎ <i>Eurytemora herdmanni</i> [++] (カイアシ類の1種) [冷水性/汽水性] ◎ <i>Thysanoessa inermis</i> (egg) [++++] (枝アミ類の1種の卵) [冷水性]	(NORPACネット) ○ <i>Pseudocalanus minutus</i> [+] (カイアシ類の1種) [冷水性] ◎ <i>Eurytemora herdmanni</i> [++] (カイアシ類の1種) [冷水性/汽水性] ◎ <i>Thysanoessa inermis</i> (egg) [++++] (枝アミ類の1種の卵) [冷水性] ◎ <i>Thysanoessa inermis</i> (nauplius) [++++] (枝アミ類の1種のノブ) リア幼生) [冷水性] (北原式定量ネット) ◎ <i>Eurytemora herdmanni</i> [++] (カイアシ類の1種) [冷水性/汽水性] ◎ <i>Balanomorpha</i> (nauplius) [++++] (ゾウガキ類のノブ) リア幼生) ◎ <i>Thysanoessa inermis</i> (egg) [++++] (枝アミ類の1種の卵) [冷水性] ◎ <i>Thysanoessa inermis</i> (nauplius) [++++] (枝アミ類の1種のノブ) リア幼生) [冷水性]
備考	(NORPACネット) 珪藻極めて多い (北原式定量ネット) 珪藻かなり多い	(NORPACネット) 珪藻かなり多い (北原式定量ネット) 珪藻かなり多い	(NORPACネット) 珪藻多い (北原式定量ネット) 珪藻極めて多い

出現量の多かった種類

●*Pseudocalanus newmani* (カイアシ類の1種: ヌナド 幼虫・コガタ)
体長: ♀0.9-1.5mm, ♂0.8-1.2mm. 冷水域に極めて普通に出現する。東北以北の沿岸では冬季層光カイヤシ類の1種となる。

●*Thysanoessa inermis* (egg) (枝アミ類の1種(仔アミ・仔アミの卵))
体長(成体): ♀2.5mm, ♂3.0mm. 北太平洋亜寒帯、ベーリング海、日本海北部、オホーツク海の300m以深に分布し、北極海、大西洋北部にもみられる。専食は卵。北海道では主に4~5月ごろ産卵期。

●*Eurytemora herdmanni* (カイアシ類の1種: ヌナド・ムドガ)
体長: ♀1.3-1.4mm, ♂1.1-1.2mm. 主に北半球高緯度地方に分布。日本では北海道東部の汽水域や沿岸部、青森十三湾等。雌のみ体の後端の形が寛状に左右非対称に突出するのが特徴。

●*Thysanoessa inermis* (nauplius) (枝アミ類の1種(仔アミ・仔アミのノブ) リア幼生)
先に産卵の卵 (*Thysanoessa inermis* egg) と、同一種のオキアミ類の幼生。専食はノープリウス幼生。

●*Balanomorpha* (nauplius) (ゾウガキ類のノブ) リア幼生)
フジツボ類の発生途中の幼生。フジツボ類はほとんどが雌雄同体で、頭部は後にノープリウス幼生、キプリス幼生の段階を経て固着生活に移る。

※海洋環境データ欄の水温、塩分、Chl.aのグラフは、水深0~9mまでの平均値をプロットしたものである。平均水温、平均塩分、平均Chl.a欄の数値は、表示の都合上、水深0~9mまでの平均値を小数第2位で四捨五入した値で示し、グラフ上の表示と異なる場合がある。

※種名の先頭に“◎”がつく種類は、出現量の多い種類を示す。[]内の“+”は分析者の経験から、サンプル中の個体数の多さが後述の程度であると判断し、区分したグループである ([+]出現、[++]やや多い、[+++]多い、[++++]かなり多い、[+++++]極めて多い)。

※種名の後ろの記号は、分析者の経験から北海道における出現傾向に後述の特徴があると判断し、区分したグループである (◆冷水性種、◆暖水性種、◆汽水性種)。

※今月のサンプルには珪藻類(植物プランクトンの仲間)が多く含まれており、沈殿量の数値はこれを含む。

※参考文献:

①千原・村野(1997) 日本産海洋プランクトン検索図説(東海大学出版会) ②山路(1966) 日本海洋プランクトン図鑑(保育社) ③若国市立微生物研究所 監修(2011) 日本の海産プランクトン図鑑(共立出版)

④Wilson, M. S. (1966) North American Harpacticoid copepods, 8: The *Daniellsenia sibirica* group, with description of *D. stefanssoni* Willey from Alaska. *Pac. Sci.* **20** (4), 435-444.

⑤Pinchuk, A. I. & Hopcroft, R. R. (2006) Egg production and early development of *Thysanoessa inermis* and *Euphausia pacifica* (Crustacea: Euphausiacea) in the northern Gulf of Alaska. *J. Exp. Mar. Biol. Ecol.* **332**, 206-215.

⑥林(2006) 水産無脊椎動物学入門(恒里社学生) ⑦Ohtsuka, S., H. Itoh & T. Mizushima (2005) A new species of the calanoid copepod genus *Centropages* (Crustacea) collected from Shimizu Port, middle Japan: Introduced or not? *Plankton Biol. Ecol.* **52** (2), 92-99.

⑧西・加藤(2002) 日本産カムリコガイ科多毛類の分類について. *タカラ*, **13**, 5-17. ⑨今島(1996) 環形動物 多毛類[生物研究社] ⑩日本プランクトン学会 監修(2011) すかん プランクトン[技術評論社] ⑪水島・鳥澤 監修(2003) 漁業生物図鑑 新 北のさかなたち[北海道新聞社]

⑫古賀(1960) *Centropages abdominalis* SATOのノープリウス幼生. *日本水産学会誌*, **26** (9), 877-881. ⑬伊藤・水島・久保田(2005) 駿河湾三保沖におけるカラヌス目カイアシ類の季節的消長. *東海大学紀要海洋学部*, **3** (1), 19-35.

⑭大越・野村(1990) 穿孔性多毛類 *Polydora* 属による北海道地方、東北地方沿岸のホタテ貝浸食状況. *日本水産学会誌*, **56** (10), 1593-1598.